Message from a Globalist 5

今回のグローバリストは
われらの校長ジョージ先生です。
2009年度合同入学式の式辞から
新入生に向けてのメッセージを紹介します。

校長
ジョージ・プルイト
アメリカ合衆国ケンタッキー州出身

未来を担う国際人に！

みなさんが、今の世代から引き継ぐ課題は膨大です。地球温暖化、食料不足、テロリズム、エイズ、そして貧困。これらの国際規模の課題を解決するためには、他の国の若者との対話が必要です。世界中の若者とのコミュニケーションを通して、紛争や武力ではなく、平和や対話の支持者となり、相互理解を促進させることができます。さらに、みなさんは、校訓であるFrontier Spiritを培わなければなりません。つまり困難に直面したときに忍耐強く、勇ましく行動できる精神を持つことで、みなさんには無限の可能性が広がるのです。

本校に通い、学ぶこと、向上することへの情熱を培ってください。保護者や学校が皆さんに対して持っている期待を認識し、その期待に応えられるように挑戦しましょう。時間は限られています。いつも全力で学習しましょう。そして、いつも向上心を持って自分自身の行動を見つめ直しましょう。

なにより、Frontier Spiritを理解して、未来を担う国際人になってください。そうすれば、皆さんは不公平や無関心、暴力が優先されない世界、平和な社会への大きな希望となることができます。わたしたちは期待しています。あらめて、みなさん、ご入学おめでとうございます。みなさん一人ひとりにとって、今日がすばらしい生活の始まりです。がんばってください。そして、名古屋国際へようこそ。あなたたちを迎えることができて、私たちは光栄です。

Hot! Information

全国高校総体(インターハイ)出場！&全国中学生テニス選手権大会へ出場！

TSL
▲千葉さん(左)と西井さん(右)

硬式テニス部は50人を超える部員で活動しています。各自が自分の目標を持って頑張っていますが、今年も昨年に続き、中高一貫6年生の西井綾さんが全国高校総体(インターハイ)への出場を決めました！また、中高一貫2年生の千葉南奈さんも全国中学生テニス選手権大会へ出場します。2人ともまだまだ改善の余地のある生徒ですが、それは言い換えれば、まだまだうまくなれる可能性があるということです。夏に向けて、課題を克服して活躍することを期待しています。皆さんも応援してください。(テニス部顧問：沢登洋)

Pick up Feature

国境を越えた理想の地球作りに参加！

NPO法人ICAN(アイキャン)が実施するTULAY(トゥライ) PROJECT「子どもがつくる新しい地球のカタチ」に、中高一貫4年生の山林大悟君が参加しました。日本の中学生が「子ども使節団」としてフィリピンに向かい、路上生活の子どもたち、ゴミ処分場周辺に住む子どもたち、先住民族の子どもたちと交流する中で、これからの未来をともに作っていこうという願いを込めて「理想の地球」の絵を描きました。国境を越えた「理想の地球」作りがそれぞれの地域ですでに始まっています。

Takashi WAKAMIYA

[Interview]

TIMES：「子ども使節団」への参加のきっかけは？

山林君：実は最初はあまり乗る気ではなかったんです(笑)。参加申込みの期限も迫っていたので、迷ってはいましたが、親や先生からきっと貴重な体験になるはずとプッシュされて、思い切って参加することにしました。

TIMES：現地ではどのような活動をされたのですか？

山林君：4泊5日のスケジュールで、マニラに到着してから、はじめに国際協力機構(JICA)のスタッフの方々に現地で抱えている課題や彼らの日頃の活動状況などの説明を受けました。マニラ市内の中心は近代的なビルが立っていて、名古屋駅よりは都市化が進んでいます。ところが、少し移動してみると、住宅地のすぐ近くに不衛生なゴミ処分場があり、路地に様々な理由で親と離ればなれになった子どもたちが路上生活をしていました。3日目からは30名弱のフィリピンの子どもたちと寝食を共にしながら、日本とフィリピンの子どもたちが将来どうやって協力して活躍していくかというワークショップを行いました。

TIMES：活動を通して何か感じたことは？

山林君：いざ世界に飛び出してみると、自分でもやれることがたくさんあるということを感じました。また、知ることや理解することで彼らも喜んでくれることも分かりました。日本に帰って来てからも彼らのためにできることを見つけることができたことは大きなことです。あと、日頃の生活の見方が変わったと思います。あたりまえのことですが、ご飯を残しちゃいけないなと。現地の路上では空腹を紛らわすためにシンナーを吸っている子供たちさえいたからです。

TIMES：今後の予定はあるのですか？

山林君：体が大きいから最初は怖がられていたけど(笑)、友達もできたし、仲良くなれたんです。また会いに行きたいですね！

▲現地での活動を説明するJICAのスタッフ

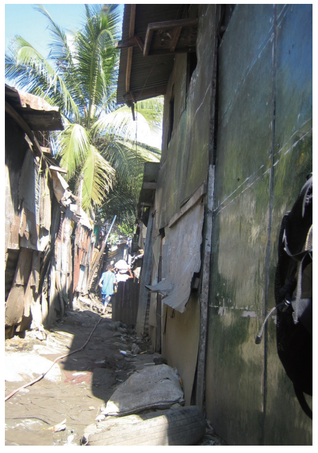
▲都市化がすすむマニラ市内

What is NPO法人 ICAN(アイキャン)

アジア日本相互交流センター(ICAN)は1994年からフィリピンの子どもたちの医療や教育、収入向上の活動を行っている特定非営利活動法人(NPO)です。特定の政治や宗教、企業母体を持たず、「人々の『ために』ではなく、人々と『ともに』」を特徴とし、活動を通して、子どもが貧困や紛争、差別などの暴力によって脅かされることのない平和な社会の実現を目指しています。

▲JICAの事務所で仲間たちと

▲住宅街に隣接するゴミ処分場



Thinking about the Future

[国際生OB OGから現役国際生へ]

Message to Students

目標はこの学校を卒業してよかったと思える学校にすること

2009年度卒業生(中高一貫コース1期生)
橋本みのりさん

こんにちは。私の名古屋国際で過ごした6年間をお話したいと思います。まず、中学3年間の一番の思い出は部活動です。中学1年生から吹奏楽に入部していました。学年を越えて本当に仲がよく、大家族みたいでした。クラスで嫌なことがあっても、部室に行けばみんなが笑顔で迎えてくれました。もちろん辞めたいと思ったこともあります。部活内のトラブルやもめ事も数えきれないほどありましたが、それを乗り越えて、定期演奏会を終えた後は「続けていてよかった。みんなと演奏できてよかった。」と思うことができました。卒業した今でも、部活のみんなとは連絡を取っています。

今、なにか部活に所属している人は、卒業するまで続けてほしいと思います。部活に限らず、何か一つ自分が好きなことをとことんやり続けてもらいたいです。必ず自分の中に何か残り、それがこれからの自分の支えになって自信につながります。

そして、私も高校生になり、一番の悩みはやはり大学受験でした。今、国際生のみなさんは、自分のやりたいことや、好きなこと、将来の夢を見つけられていますか。私は高校3年生になるまでそれをなかなか見つけることができずに苦しんだ一人です。親と何回も衝突しました。そんな衝突もあってか、自分と向き合うのが少し遅くなってしまい、受験勉強に全力を尽くすことができませんでした。それをとても後悔しています。大学進学を考えている人には、同じ後悔をしてほしくありません。大学受験の時期に、全力を尽くして、自分の納得できる結果につなげてほしいです。

色々と書きましたが、卒業した後、名古屋国際を思い出して「楽しかった」と思える毎日を過ごしてください。それが、部活でも、友達と遊びに行くことでもなんでもいいです。

それともう一つ伝えたいことがあります。「私の目標はこの学校を卒業してよかったと思える学校にすること。」私たちが名古屋国際中に入学した時から先生が言っていた言葉です。そんな学校にしていくのは自分たちです。自分の行動に責任を持ち、卒業してよかったと思える学校を作り上げていってください。

Minori HASHIMOTO

▲大学生の仲間と橋本さん(前列左端)

NAGOYA INTERNATIONAL JUNIOR HIGH SCHOOL MUSEUM フロンティア美術館 3

「見事なまでのボリューム感」

連載3回目となる今回は、中高一貫5年生の小川満帆さんの作品を紹介します。この課題は「生き物をリアルに作る」というテーマで、生徒たちはそれぞれ自分の表現したい動物を設定するのですが、約1年間のニュージーランド留学から帰国したばかりの小川さんは、そこで見たキウイのかわいさを忘れられず、迷わず制作に取りかかりました。

他の生徒からも魅力あふれる作品が多数提出されたのですが、その中でも特に目を引いたのが小川さんの作品です。学生時代からずっと彫刻を学んできた私から見て、この作品が、とても彫刻の基礎を学んでいない人の作ったものに見えなかったのです。背中やお尻、足の付け根など、細部にわたり「骨格」と「肉付け」への配慮が感じられ、動きも実に生き生きと表現されています。

写真ではあまり伝わらないと思いますので、興味のある方はぜひ美術室まで足をお運びいただき、実物をご覧ください。(館長：美術科 鈴木悟)

ジョージ校長の映画名セリフ集 Great Dialogue from the Movies

"I love the smell of napalm in the morning."

(朝に嗅ぐナパームの香りは最高だ)

この台詞は、アメリカの最も有名な現代映画の1つである「地獄の黙示録」(ベトナム戦争を題材にした長編戦争映画)に出てきます。映画の中で、ベンジャミン・ウィラード大尉(マーティン・シーン)は、狂気に走ったウォルター・カーツ大佐(マーロン・ブランド)を暗殺するべくジャングルの奥深くに送り込まれます。

途中で、ウィラードとその部隊は、ビル・キルゴール中佐(ロバート・デュヴァル)に遭遇します。キルゴールは、ある丘を12時間に渡ってナパーム弾で爆撃した時のことを描写していき、上の有名な台詞を口にして、ナパームの香りを「・・・勝利の香り」と表現します。ウィラードは最後にはカーツを斬殺します。

「地獄の黙示録」はカンヌ映画祭でパルム・ドール(最高賞)を獲得し、2つのアカデミー賞を獲得しています。

This line appears in one of the most famous of all modern American films—"Apocalypse Now", an epic war film set during the Vietnam War. It tells the story of Captain Benjamin Willard (Martin Sheen), who is sent deep into the jungle to assassinate Colonel Walter Kurtz (Marlon Brando), because Kurtz has gone insane. At one point, Willard and his crew meet up with Lieutenant Colonel Bill Kilgore (Robert Duvall). Kilgore describes a hill bombarded with napalm for twelve hours. He uttered the famous line above and said that the napalm "smelled like … victory" . In the end, Willard hacks Kurtz to death with a machete. "Apocalypse Now" won the Palme d' Or at the Cannes Film Festival and won two Academy Awards.